

実施報告

プラズマディスプレイシステムの運用

佐々木 美智子

平成 14 年度より、横浜キャンパス内にプラズマディスプレイシステムが導入された。約半年間の運用の中で知り得た種々のシステム上の要望や表示内容の改善点を踏まえて、平成 15 年 3 月には大幅な機能追加を計画中である。ここでは、本システムの運用目的と現況、今後の課題について述べた。

キーワード：プラズマディスプレイシステム、キャンパス内広報、web サービス

1 現在の運用

平成 14 年 4 月の情報メディア学科開設にあわせて、横浜キャンパス内にプラズマディスプレイシステムが導入された。情報メディアセンターがその運用を引き受けることになり 9 月から試行運用し、11 月より本運用を開始した。50 インチのプラズマディスプレイを、学生食堂 1 階、学生ホール、学生ラウンジの 3 箇所に設置し、情報メディアセンターの操作卓からデータを配信する。

本ディスプレイシステムにおける表示内容は、学生に向けた情報メディアセンターや学務課等大学からのお知らせや学団連やサークル活動のイベント情報などである。表 1 に、現在の運用内容を示す。

表 1 現在の運用

更新作業	情報メディアセンターで週 1 度程度のパワーポイントファイルの更新
表示受付	ゼミ、公式の委員会、承認されている学生団体、登録されているサークルから表示受付。
運用休み	土日休日、長期休暇中（イベント等必要に応じて表示）
運用時間	授業のある期間 月-金 9:00-20:30
掲出可能形式	パワーポイント、ホームページ(URL)他

現時点では、大学からの連絡事項をパワーポイントで作成し表示するにとどまっている。このため、学生からはいつも同じ情報が流れているようなのであまり見ない、という声がきかれた。

一方で、本システムを、公共の場のコミュニケーションツールと捉え、新しい活用の可能性をより広く探るため、卒業研究及び修士論文のテーマとしても取り上げられ、研究された。

SASAKI Michiko

武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンター事務員

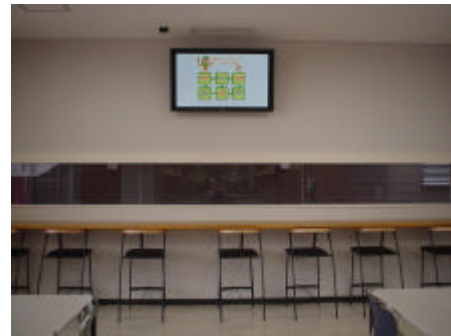


図 1 学生食堂に設置されたプラズマディスプレイ

2 機能追加に伴う新しい運用

2.1 機能追加の内容

今までの運用を踏まえて、次の段階としてどのような活用をしていくべきか、平成 15 年 3 月に導入する機能追加に伴い新たな運用について検討する。カスタマイズをして実現する機能やその他条件も含め、主な機能追加については以下の通りである。なお、4 月よりプラズマディスプレイをメディアホール及び情報メディアセンター 2 階に設置されるメディアカフェ（仮称）にも設置する。

表 2 主な機能追加内容

	現行	標準の機能追加	カスタマイズ後の機能追加
画面分割	1 分割	1 or 3 分割	1 ~ 3 分割
掲出可能な形式			
パワーポイント			
ホームページ	自動更新無	自動更新無	自動更新有
文字情報	×		
動画(mpeg)	×		
学内放送			
操作卓	操作卓のみ	Web 上で操作により各自の端末で可能	
スケジュール	曜日指定のみ	カレンダー指定可	

3 分割とは図 2 のように、掲示情報、映像、文字情報（テ

ポップ)を同時に表示できる機能である。



図2 3分割のイメージ

2.2 表示内容の拡張 広報

大学からのキャンパス内の広報は、掲示物、ホームページ掲載、メール送付等で行っているが、プラズマディスプレイにて常に目にすることにより周知を高める。

キャンパスニュースの発信

キャンパス内のニュースやイベント、学生団体や研究室の活動の紹介等を常に目に触れる状態にすることにより、一人一人がよりキャンパスで行われていることに関心を持ち、一体感を作り出す一助になると考える。

表3 表示内容の区分

広報	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトで投稿されている Campus topics(学務課, 総務課, 情報メディアセンターなど大学からのお知らせ)や Message board(学生同士の情報交換)の内容を表示する。
学内向け広報	<ul style="list-style-type: none"> 「キャンパスニュース」として研究室やサークル, 学生個人の活動報告等をパワーポイントやビデオ映像などで表示する。
学生向けサービス	<ul style="list-style-type: none"> 休講情報, パソコンの利用状況, 拾得物一覧など, 現在 web 上で行っているサービスを表示する。 文字放送などで天気予報などをテロップで流す。
学生の活動・作品の発信	<ul style="list-style-type: none"> 放送会によるお昼の放送 学生が作成した映像作品や写真などを表示。
憩いや娯楽	<ul style="list-style-type: none"> 環境映像などの番組を流す。
研究対象	<ul style="list-style-type: none"> 公共の場でのコミュニケーションツールとして等の研究テーマの検証の場として利用。

現在、環境情報学部のホームページに教員や学生の内外での活躍について情報を集め、主に学外への広報として発信している。受験生をターゲットにしたホームページでの広報活動の重要性がここ数年で急速に高まっている結果である。もちろんそのような情報はホームページを見れば学内の人も知ることができるが、常に目に触れる状態ではないため、キャンパス内への広報の手段としてプラズマディスプレイを活用する。

学生へのサービス提供

現在 web 上で行っている休講情報, パソコン利用状況などや, 文字放送による天気予報などを表示することにより, 学生が学食などで過ごしているときに次の行動を決める際に役立つ情報を提供する【1】

表3に、目的別に表示可能な形式を含めた具体的な内容を示す。

2.3 課題

前節の内容を実現するために必要な条件と課題を以下に整理する。

web サービスの表示

効率よく常に最新の情報を提供するために、現在ポータルサイトで提供しているサービスの内容を自動的に表示する仕組みが必要となる。既存のシステムでは、URL を指定することでそのページを表示することはできるが、パソコンの利用状況など随時最新情報に更新されているページを表示する場合、自動更新の機能が必要となる。その機能は現在カスタマイズで対応するため、実現するのは平成15年度後期からの予定である。

キャンパスニュース発信や活動発表の場としての利用

利用者にとって魅力的な内容を提供するためには、学生の参加が不可欠と考える。プラズマディスプレイに表示して欲しい、と思ってもらえる媒体にするために、少なくとも軌道に乗るまでは積極的に取り組む必要がある。

現在、情報メディアセンターでは主に学外広報用に教職員に働きかけ情報を収集している。一方、オンラインキャンパス委員会の学生組織である OCRG がメールマガジンを発刊した(平成14年11月第一号発行)。取材内容等における、この両者の連携も、内容充実への手段と考えられる。

スケジュール設定

表3で挙げた内容をプラズマディスプレイで表示するためには、その内容に応じてそれぞれの表示時間や開始及び終了時刻を1日のスケジュールとして登録することとなる。(図2参照)例えば、パソコンの利用状況などは頻繁に表示したり、学生の作品等、特に学生の興味のある内容については多い昼休みの時間帯に出すなどの工夫をする。

また、情報メディアセンターに設置しているプラズマディスプレイにはコンピュータの利用案内を別途表示するなど、効果を高めるために場所に応じた内容を表示する。

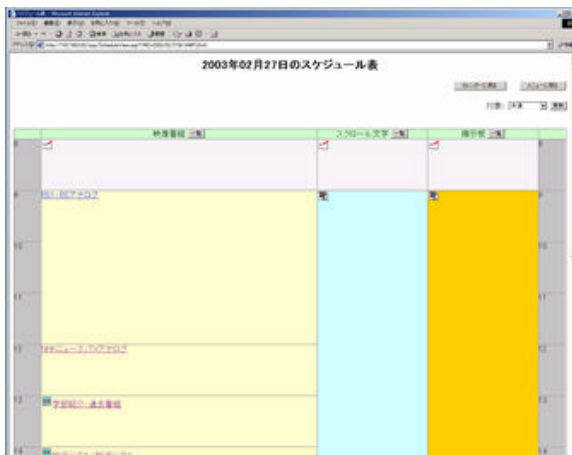


図2 スケジュール操作画面

3 おわりに

現在までのシステムの運用により、種々のシステム上の要望や表示内容の改善点について認識することができた。表示手段の効率化を図りつつ、学生からの意見を取り入れてプラズマディスプレイによる情報が学生生活の一部として定着していくよう工夫していく。

実際にこれらを実現するためには、システム開発などコアセンターを始めとする関係者の協力、及びコンテンツ作成やスケジュール設定等の事務の作業が発生する。現在進めている機能拡張を含め、さらなる機能追加の可能性や今後の方針を明確にするため、概要を報告した。一つ一つ実現していきたい。

参考文献

〔1〕小泉知之、「コミュニティ型ホットスポットにおけるインタラクション促進サービスの検討」、武蔵工業大学大学院環境情報学研究科 2002 年度修士論文